



サレジオ家族の皆さん、

神は少年サムエルを忍耐強く、繰り返し呼ばれます。その声の主がどなたなのか、サムエルが理解するまで。理解したサムエルは、**すぐに**神が求められることに心を開きます。イエスが使徒たちを呼ばれたときのように：彼ら（シモンとアンデレ）は網を残し、**すぐに**イエスに従います。ザアカイは、受け入れられた恵みを感じると、人のために惜しみなく行動しようとしします。**すぐに**。

召命が生まれるのは常に、その人が神と出会う、忘れがたい瞬間です。それは立ち帰るたびに、私たちの堅忍と忠実の源泉となります。勇気を持ちましょう、なぜなら、私たちの力は神の知恵、愛、忠実にあるということを、私たちは経験しているからです！ 神に献身するとき、自分のすべての弱さ、至らなさ、人生の旅を歩むために神がくださる賜物を私たちはささげます：すべてをささげます - これから発見するであろう未来の豊かさも - 人との新たな関わり、人生のさまざまな状況を通して私たちのうちに成長する能力、奉仕職において成長することの魅力。それを自分のものとして取り戻すことなく、喜びのうちに、すべては神のもの。すぐに、喜んでささげる人は、二倍ささげるからです。

私たち奉獻生活者の皆に、熱意と忠実、主のための尽きることのない創造力が恵まれますように。

■ VDB 総会長 D. K.

人類の全人的発展を育む



すべての人、一人ひとりが「より人間らしく」なるように働き、人類家族の人々との連帯のうちに、人間の文化的、経済的、政治的、社会的、霊的な**全人的善**を促進するとき、真の発展は完全なもの、あるいは「全人的な統合された」ものになります。それは、すべての人一人ひとりが、神にかたどられ、神の似姿に造られている（創世記 1・27）という理解を土台にしています。この理解は、発展の枠組みを根本的に変え、援助、慈善、奉仕が豊かな「与える側」から貧しい「受ける側」に流れるという捉え方から、一人ひとりの人間の尊厳を認識すること、共通善と連帯を促進することにすべての人が関わるという捉え方へ、移行させます。

福音は私たちに光を投げかけ、あらゆる悪の根はすべての人の心にあるということに気づかせます。したがって、全人的発展には、**人間の精神と心の回心**を育むことが、必ず含まれるのです。人間の心の非人間的な傾向が健全なものへと変えられないなら、最も理想的なシステムも、あっとい間に非人間的なものになってしまうでしょう。**不正な構造**は個人の罪の結果であり、対立の原因になります。このことに気づくことによって私たちは、人間を、特に女性、若者、子どもを人間以下の状態におとしめる状況や構造と闘うことへ向かいます。

キリストは人間となることによって、すべての人、一人ひとりと一つになりました。したがって、**人間は、教会がたどる道**なのです。そのため教会のあらゆる活動は、人類の全人的発展を促進するものなのです（ベネディクト十六世回勅『真理に根ざした愛』11）。しかし、人類の全人的発展を促進するために、カトリック、あるいはキリスト者であったり、何らかの信仰を表明していたりする必要はありません（ヨハネ・パウロ二世回勅『真の開発とは』37）。

福音を宣べ伝えることのできない環境では、一人ひとりが自らの可能性を十全に実現することの促進、また人間の尊厳の尊重、連帯、神の造られた世界を大切にすることの促進によって、私たちはキリストへの信仰をあかしします。人類の全人的発展を促進するサレジオの活動は、イエス・キリストへの深い信仰と愛に触発されるものです。そうでなければ、私たちは単なる社会福祉事業、あるいは NGO になってしまうでしょう！！

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと 分かち合いの ために

■ どうすれば、福音を宣べ伝える道として、人類の全人的発展を促進できるだろうか？

■ どうすれば、人類の全人的発展の中核として、心の回心を促進できるだろうか？



リトアニア、信仰への渇き



シスター・イルテ、あなたはほかの6人のサレジアン・シスターズと、カトリックの存在がどちらかといえば弱いリトアニアで働いておられますね。リトアニアの人々は教会をどのように見えていますか？

リトアニアがカトリックの存在の弱い国だとは思いません。もちろん、ほかのヨーロッパの国々と同じく世俗主義が広く見られますが。それにもかかわらず、信仰への渇きがあります；若者やおとなのための祈りの会は増えています；黙想のための新たなセンターも開設されています；信徒、求道者のために、聖霊による刷新の集いが開催されています。しかし、奉獻生活への召命は残念ながら少ないです。私たちは新たな福音宣教の必要性を感じています。

リトアニアのFMAのシスターたちは、チェコのFMAと同じ管区に属していますね。二つの異なる文化をもつ皆さんの間で、どのようにコミュニケーションを取ったり協力して働いたりしておられるのですか？

チェコ共和国-リトアニアの無原罪の聖マリア管区のシスターたちの共通言語はイタリア語です。管区長はすべての支部を訪問します；管区評議会は、年に一度、リトアニアで会合を行います；私たちは、感謝の祝いの機会に一緒に集います。FMA 35人の小さな管区なので、シスターたちはお互いをよく知っています。パンデミックによってはじめて状況が変わりました。今はオンラインでのコミュニケーションが多くなりました。

シスターは首都カウナスの6歳から15歳の子どもたちのセンターで責任者を務めておられますね。どのようなミッションなのですか、活動の目的は？

私たちは1996年に、危険にさらされている子どもたちのためのこのデイケア・センターを開設しました。カウナスの労働者層の人々が暮らす地域で活動しています。ここでは人々が多くの社会問題に直面しています。崩壊した家庭が多くあります。最大の問題はアルコール依存と薬物です。現在、20人以上の子どもたちがセンターに通っています。子どもたちは学校が終わるとここへやって来て、宿題をし、食事をし、遊び、衣類を洗濯してもらいます。子どもたちの家庭と緊密に連絡を取ることは、センターの活動のためにとても大切なことです。この小さな人一人ひとりの全人的教育の道を、私たちは歩もうとしています。



シスター・イルテ・ドヴィダイティテ, FMA
Sr. Irut Dovydaityt

共産政権下のリトアニアで、信仰のほとんどない家庭に生まれる。母はプロテスタントの教会に属し、父はカトリックだったが信仰を実践していなかった。教育学と方法論を学んだ後、国立の小学校で教師として働く。1989年の政変の後、**主と出会う深い体験**をし、信仰の旅を歩み始める。

1990年代、小教区の若者と共に小さなオラトリオを、夏には男子青年のための活動を組織した。**聖書学を学んでいた**とき、修道生活に呼ばれていると感じ、サレジアン・シスターズと出会う。2003年から、カウナスの不安定な状況にある**子どもたちのためのデイケア・センター**の責任者を務める。



サレジオ宣教の日2022

フ
ォ
ー
ム
COMMUNICATING CHRIST TODAY 今日、キリストを伝える



今年のテーマは、**宣教**（宣べ伝えること）と**コミュニケーション**（社会的）の間の緊密な協働の必要性和その機会を強調します。

冊子、ポスター、祈りのカード、ビデオが出ています。

資料はこのページに掲載されています：<https://www.sdb.org/en/Departments/Missions>

資料の翻訳を希望する皆さんは、cagliero11@sdb.orgへご連絡ください。編集用のフォーマットをお送りします。

2月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

修道生活、奉獻生活に召された女性たちのために

リトアニアのサレジアン・シスターズが、神への揺るぎない信頼と、生活、活動における共感あふれる愛を、生きることができますように。

修道生活、奉獻生活に召された女性たちのために祈りましょう。姉妹たちのミッションと勇気に感謝します。この時代が投げかける挑戦に、新たな応答を見いだし続けることができますように。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

ヨーロッパの
ために

